

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人兵庫教育大学

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるため、「現職教員に対する専門職として高度な専門性と実践的指導力の育成」「実践力と人間性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」「学校教育に関する理論と実践を融合した研究（教育実践学）の推進」「教員養成・研修の先導的モデルの構築」「教育研究成果の発信」を使命としている。第3期中期目標期間においては、教員養成・研修の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、教育委員会や自治体のニーズを踏まえた現職教員研修を幅広く展開するとともに、学生の英語能力向上のための体制強化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教職キャリア開発センターにおけるこれまでの取組と成果を分析し、学部学生への就職・キャリア支援内容の充実を図るとともに、教職志望の大学院ストレート学生を対象とする新たな就職・キャリア支援プログラムを立ち上げている。（ユニット「全国最大規模の教職大学院をさらに拡充し、卓越教職大学院へ」に関する取組）
- 教員養成の高度化を推進するナショナルセンターの機能を有する教員養成高度化実践センター（仮称）の設置に向けて、設置準備室を設けて専任教員を配置するなど体制整備を進めている。「（ユニット「教師教育の実践と研究における全国拠点（ナショナルセンター）並びに地域拠点（リージョナルセンター）」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③女性の活躍・男女共同参画 ④事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

**○ 研究活動における不正行為**

大学院学校教育研究科の准教授の研究論文について盗用を行っていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ アクセスにも配慮した現職教員研修プログラムの提供

現職教員のニーズに応えるため、アクセス環境の良い神戸ハーバーランドキャンパスを拠点として各教育委員会との連携による研修の実施に取り組んでおり、伊丹市教育委員会及び西宮市教育委員会と教職大学院教員が連携して、専門性の異なる複数の指導主事がチームとなって1つの学校の教育課題に対応できる研修プログラム等、指導主事の力量形成に関するプログラム等を開発し、実施している。

### ○ 英語力向上ステーション部門の新設

小学校教員になるための英語力の向上を目指し、従来の国際交流センターをグローバル教育センターに改組し、「英語力向上ステーション」部門を新設しており、英語対策講座や外国人留学生との「Eigo de ランチ」の開催など、英語力向上の取組を進めた結果、学生の海外への関心の向上につながり、短期海外派遣者数が28年度と比較して23.8%増加している。

### ○ 入学者選抜方法の改善

教員になるための資質・能力等をよりの確に評価するため、従来の入学者選抜による成績と教員採用試験の可否との関連性の分析や、国内外の教員養成を行う大学の入試方法の調査等を行い、全ての選抜における面接試験の実施や、教員志望理由や高校での活動状況をより詳細に把握できる「教員志望理由及び活動報告書」の導入等を内容とする新選抜を決定し、平成31年度入学者選抜から実施することとしている。

### ○ 附属学校園を活用した大学教員の実務研修の実施

学校現場での実務経験を持たない新採用教員や指導経験を有するが採用後10年を経過した教員を対象に、附属学校園、発達心理臨床研究センター等の臨床心理相談室及び教育隣接分野（福祉、医療、司法等を含む。）の関係機関において、授業の実施、指導案の作成、協力教員の補助等を内容とする実務研修を実施しており、平成29年度の実務経験を有する教員の割合は45.9%になっている。